

衆議院議員 あかま二郎

「地方自治は民主主義の学校」と言われる。今、その地方自治の重要な役割を担う地方議会が危機に直面している。今春の統一地方選挙では、道府県議選の無投票の選挙区が実に39.3%に達した。(市議選は294市のうち11市、町村議選は375町村のうち93町村) いわゆる、「なり手不足問題」だ。



「なり手不足問題」に着手

危機に直面する「民主主義の学校」

「地方自治」の施策・制度を担当する自民党総務部会として、新たにPT(プロジェクトチーム)を立ち上げ、議論に着手。すでに都道府県議長会、市議会議長会、そして町村議長会といった当事者からヒアリングを実施。併せて、有識者などからも意見を聴取。

女性議員比率、定数の問題、議員の身分、夜間議会の開催等、論点は多岐にわたる。そればかりか道府県議会と町村議会では同列に論じきれず、地方議会とひとくくりにできない複雑さをはらんでいる。「待ったなしの課題」として、早急に処方箋を示していかなければならない」とあかま部会長は決意を語る。

あかま総務部会長が議論をまとめた法案の一つで、「これまで、端末の値引き分を通信料金に上乗せするといった携帯事業者の販売・契約手法を厳格にした」のだ。「端末の値段と通信料金を完全分離することで分かりやすい料金体系となるはずだ」とあかま部会長は期待する。同時に、「携帯市場の適正化に向け、しっかり注視していかねばならない」と力を込める。

年明けから150日間続いた国会審議。「57本の政府提出法案がある中、54本の法案が成立した。成立率95%はまずまずの数字だ」とあかま部会長。国会論戦が深まらなかったという意見に対し、あかま部

会長は「参院選を控え、提出法案を絞り込んだ結果、与野党の対決法案がそもそも少なかった」と語る。その上で、あかま部会長は「政府与党に對峙するはずの野党の足並みがバラバラ

だったことも本格論戦とならなかった一因ではないか」とも指摘する。他方、「自民党総務部会長として、国民生活に影響する大事な法案をしっかりと成立させることが出来、成果を挙



政府提出法案の成立率95%

「政策責任者として一定の成果」

総務副大臣、内閣府副大臣などを歴任し、現在、自民党政調会 総務部会長を務めるあかま二郎衆議院議員。「令和初」となった第198回通常国会で政策決定の要(かなめ)として法案成立に注力した。改めて、国会審議を振り返ってもらった。



第198回通常国会を振り返って

総務部会長
あかま二郎 「自己評価は80点」

げられたことにホッとしている」とあかま部会長。今国会で電気通信事業法、放送法、電波法、地方交付税法、そして地方税法などの改正を仕上げたことで、関係省庁からは部会長に寄せる「信頼」がさらに高まったとの声

も聞かれる。それでも、あかま部会長は「他にも成立させることが出来た法案もいくつかあった」と悔しさを口にしながらも「まあ、政策責任者の立場とすれば70点から80点くらいかな」と本音も。

電気通信事業法改正

「スマホ通話料“値下げへ”

今や必需品ともなっているスマートフォン。「その通信料が安くなる」と聞けば、嬉しくないはずは

ない。今国会で成立した「電気通信事業法の一部改正」こそ、それを可能とした法律だ。

今回は、「浜名湖」への「ひとり旅」だ。自分で電車を調べ、どのくらいの時間がかかり、いくらお金がかかるのか考えての出発。「雄ちゃんはスゴイのね」と思われる方もいるかもしれませんが、実は、雄二郎、「半べそをかきながら」の出発でした。

バスに乗り、横浜線に乗車し、新幹線に乗り換え、浜松の駅に降り立ち、一生懸命に目的地浜名湖を目指したそうです。残念ながら、反対方面のバスにのったり、乗り換え間違いをしたりして浜名湖へは到着できなかったようです。多分、半べそをずっとかきながらの「ひとり旅」だったに違いありません。その日の日記の最後には「もう行きたくありません...」。パパは、雄ちゃんに誰よりも強くたくましくなって欲しいと心を鬼にして「男のひとり旅」を頑張らせているんだよ。追伸、お土産のうなぎの骨、浜松限定源氏パイ、嬉しかったです。



忙中閑有 “男のひとり旅”

息子雄二郎は小学6年生。シッカリしたお兄ちゃんの時もあれば、甘えん坊な所も。けれども、「是非、強くたくましい子になって欲しい!」と願うのは何処の家庭も同じなのだと思う。「自分で考える力」「困ったら、どうする?」などなど、息子には「是非、身につけて欲しい」と常に願わずにはられない。先日、雄二郎に「ひとり旅」を経験させた。



東日本復興特別委員会

去る5月27日、東日本復旧・復興状況等の調査のため東日本復興特別委員会のメンバーとして、福島県を視察。

まず、南相馬市に入り、小高交流センターへ。失われたコミュニティーを再構築するためのこの施設は、多世代交流の拠点として本年1月に開館。

次いで、除染により生じた土壌等が保管されている市内で最大規模の小谷仮置場へ。除去土壌等の入った大量のフレコンバッグ。搬出後の原状回復と跡地の扱いの検討も始まっているが…。



現
地
視
察

「復興・再生への道のりは、まだ長い」

次に、浪江町に入り吉田町長より町の復興状況について説明を受ける。「駅前を中心市街地をいかに活性化していくのか課題は大きい…」。

さらに、福島水素エネルギー研究フィールドに。再生可能エネルギーから水素を製造する世界最大級の装置は来年度には実証運用が始まる。“次世代エネルギー”は福島から発信！

また、東京電力廃炉資料館にも。福島第一原子力発電所の廃炉作業では、燃料デブリの取り出しという最大の課題が。現在、その方策について検討が進められている。



実情を踏まえたきめ細やかな復興施策の推進へ—— 東日本被災地の復興・再生は一步ずつ前に進みつつあります。復興・創生期間後においても国が前面に立って取り組み、被災地に寄り添うことが不可欠です。



政策

■廃プラ問題解決へ
産業・資源循環議連

これまで日本の廃プラスチック輸出先の7割は中国へと送られてきた。ところが、今年に入り、中国が“廃プラ輸入禁止”を打ち出したため、日本国内に廃プラの山が溢れかえる懸念。こうした事態を受け、産業・資源循環議員連盟（事務局長あかま二郎）は、環境省、事業者、さらには自治体の意見を踏まえ、今般、原田環境大臣に「緊急要望書」を提出。



提言

■防災力の充実強化へ
消防議連 + 総務部会

昨年、一昨年と相次いで長野県、群馬県で防災ヘリの墜落事故が発生。消防議連として小委員会を設置し検討を重ね、「消防防災ヘリコプターの安全運行の確保に関する提言」を取りまとめた。検討内容を踏まえ、早急に政府の取組みがなされるよう、消防議連と総務部会は石田総務大臣へ提言。

旬彩紀行

ミライ・キラキラ・ワクワクを満喫!



ミライ、キラキラ、ワクワクなど言葉を並べると、「あかまさん、“子供の将来”でも語るの？」なんて言われてしまいそうですね。実は、これらはトウモロコシの品種の名前なのです。今が、“旬”のトウモロコシ。梅雨の合間をぬって相模原市内の直売所へ。

「あかまさん、よく来たね！」と笑顔で迎えてくれた農家さん。厚かましくも、畑に行ってもぎ取りまでさせていただきました。と〜っても甘いトウモロコシに愛娘美優も満面の笑み!!? 是非、相模原産トウモロコシをご賞味下さい。

